

事務事業評価シート

1 基本情報

1 基本情報		事業番号		010401040300		事業の種類		4	
年度	28	事務事業名	資料館管理事業	予算事業名	資料館管理事業		優先度	4	
まちづくり目標		健やかな成長と人間力をのばせるまち		担当部局名	教育委員会生涯学習課				
施策名(中)		文化に触れ、参画できる環境をつくる		担当課長	番匠 真由美		担当者名	桑本 健一	
取組み事項		文化財の保存と活用を図る		実施計画への記載		無		主要事業の指定	無
実施計画事業名		資料館活性化サポート事業			資料館維持管理事業				
根拠法規及び関連法規		相生市立歴史民俗資料館条例							
事業の目的	誰のために(具体的に)	市民							
	誰(何)を対象として	歴史民俗資料館							
	意図(どのような状態にしたいのか)	郷土資料の収集、保存、活用を図ることが郷土愛につながる。							
	事業の全体年度	事業着手年度	(年度)		事業完了予定年度		(年度)		

2 事業の概要 Do

実施の概要		郷土資料を適正に管理し、市民の関心と理解を深める。				
活動実績	項目	単位	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度計画
	入館者数	人	1,244	1,352	1,280	1,300
	特別展の参加人数	人	516	653	2,168	700
	歴史講座の参加人数	人	123	92	161	170
	資料の購入点数	点	38	15	113	50

3 投入資源

3 投入資源		会計区分	一般会計		事業費単位:円				
インプット指標		26年度決算	27年度決算	前年比	28年度決算	前年比	29年度予算	前年比	備考
人員	部長以上職員	0.027	0.026	96	0.026	100	0.027	104	
	参事以下職員	0.270	0.350	130	0.326	93	0.346	106	
	臨時職員	0.511	0.522	102	0.284	54	0.521	183	
支出内訳	人件費	3,692,223	4,278,872	116	3,545,224	83	4,507,042	127	
	事業費	2,807,837	2,431,115	87	3,670,832	151	2,474,000	67	
	合計	6,500,060	6,709,987	103	7,216,056	108	6,981,042	97	
財源内訳	国庫支出金			-		-		-	
	県支出金			-		-		-	
	市債			-		-		-	
	その他			-		-		-	
	一般財源	6,500,060	6,709,987	103	7,216,056	108	6,981,042	97	
	合計	6,500,060	6,709,987	103	7,216,056	108	6,981,042	97	

※ 事業の進捗状況

項目		26年度	27年度	28年度	29年度	
全体進捗率	事業費累計					
	進捗率					

4 評価指標

【有効性】

指標名1		資料収集状況							
指標説明(式)		年度内に受け入れた資料数(調査報告書等を含む)							
指標単位	区分	26年度	27年度	前年比	28年度	前年比	29年度(計画)	前年比	備考
点	目標	120	120	100.0	120	100.0	120	100.0	
	実績	150	69	46.0	113	163.8			
指標名2		総来場者数							
指標説明(式)		年度内の入館者数+特別展の参加人数+歴史講座等参加人数							
指標単位	区分	26年度	27年度	前年比	28年度	前年比	29年度(計画)	前年比	備考
人	目標	1,800	1,800	100.0	1,800	100.0	1,800	100.0	
	実績	2,000	2,196	109.8	3,696	168.3			

【効率性】

指標名1		資料館総来場者1人当たりにかかった経費							
指標説明(式)		(人件費+事業費)÷総来場者数							
指標単位	区分	26年度	27年度	前年比	28年度	前年比	29年度(計画)	前年比	備考
円	目標	3,800	4,000	105.3	4,200	105.0	3,900	92.9	
	実績	3,250	3,056	94.0	1,952	63.9			
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	26年度	27年度	前年比	28年度	前年比	29年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(28年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	担当課評価
妥当性	目的の妥当性	市民に対して、文化財に対する正しい知識を持ち、郷土の歴史・文化を知ってもらうと同時に、郷土の歴史、民俗などに対する市民の理解を深めることは市の責務と考える。	4
	市民ニーズ	市民から寄附を受けた物件や、収集した貴重な財産を守り、一般に公開すると同時に、後世に伝えていくことは必要である。	
有効性	市民サービス	郷土資料を市民共通の財産として、後世に引き継ぐことは不可欠である。	4
効率性	手段の最適性	資料館活性化サポート事業により特別展や歴史講座の開催、資料館資料の収集・公開を行い、資料館の入館者数増に努めた。	4
進捗状況	事業計画に対する進捗状況	概ね計画どおりに進捗している。	4

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
妥当性	目的の妥当性	寄贈を受けた貴重な資料や資料館活性化サポート事業で収集を行った資料を展示することで資料の有効活用を図る。

7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた29年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
妥当性	市民ニーズ	引き続き資料館の展示物の入替や特別展を実施するとともに、歴史講座等の市民参加型の事業を実施する。

(2) 30年度以降の改革改善内容

区分	内容
重点事項	引き続き資料館活性化サポート事業を継続していくことで、展示物の入替を行い、資料館への来館者増を図るとともに、歴史講座や史跡めぐりなどの市民参加型の事業を実施する。
見直し事項	
新規事項	
方向	継続 成果 拡大 総コスト 維持



配点	32.5
総合評価	26